

自立のきっかけづくりとしての「職業体験」

職業体験をコーディネートする市民ボランティア・高橋美智恵さんに聞く

今、小学校や中学校で子どもの職業観や勤労観を育てることを目的に職業体験が行われています。

板橋区立向原中学校でも、ここ数年、中学1年生と2年生全員に対して、区内を中心に職場訪問や30箇所を超える多様な職業体験先を準備しながら取組を進めています。この取組に市民ボランティアとしてかわり、生徒の体験先を探したり、前後の学習の講師を探すなど学校での職業に関する授業のコーディネートをしている高橋美智恵さんから、お話を伺いました。

高橋さんがかかわっている「職業体験」について聞かせてください。

去年から市民として学校教育を支援している「NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし」のメンバーとして、向原中学校のお手伝いをしています。向原中学校では1年生には職場訪問、2年生には職業体験の機会を準備しています。昨年の11月には1年生全員が病院や消防署、郵便局、老人ホームなどに分かれて職場訪問をしています。1月末の職業体験(中学2年生全員)では、30数箇所の体験先に分かれて二日間の職業体験をしました。事前にアンケートを行って希望を聞いた上で、青年会議所の協力をいただいて体験の受け入れを依頼していただきました。おおむね好意的に引き受けていただきましたが、受け入れていただける人数にも限りがありますから、どうしても希望がかなえられない場合もあり、調整にはかなり時間がかかりましたね。その結果、消防署、図書館、老人ホーム、保育園、動物園、遊園地、花屋、パン屋、ペットショップ、劇団、出版社、ファミリーレストラン、コンビニエンスストア等多種多様な体験先を準備できました。

どうして「職業体験」をサポートする活動を始めたのでしょうか。

「どう働くのか、働けるのか」という問題が私自身の問題だったからでしょうね。子育てをしながら、専業主婦のまま終わりにたくない、世の中で自分が役に立っているという実感が欲しくて、3年かけて社会保険労務士の資格を取りました。でも資格があれば職があるというわけではないんですね。どうしたら自立して働けるようになるのか、という不安を抱えている頃に、板橋区の成増社会教育会館での区民創作講座「働くって何?」に参加してみたんです。その講座の中で高校生とディスカッションする機会があったわけですが、今の若い人が驚くほど働くことに悲観的で、自分に自信が持てていないことを目の当たりにしました。私自身も資格をとったものの、これから本当に働いていけるのかという不安を抱えていた時期でしたから、高校生の気持ちに心が響いたんでしょうね。また、めざしている社会保険労務士という仕事が、人が働くことを法律や制度の上で支援していく仕事なので余計に若い人の仕事に対する悲観的な姿が気になったんでしょう。と同時に、自分も含めて、大人は子どもに働いている姿を見せているのだろうか、働いている充実感や働く誇りを伝えているのだろうかと思いました。今の活動を始めたのはつい最近ですが、この体験がベースになっていると思っています。

高橋さんが子どもたちに伝えたいことはどんなことですか。

資格をとるために法律書を理解しなくてはならないのですが、はじめは読んでいてもまったく頭に入らないんですね。何を言っているのか理解するのに何度も読み返さなくてはならない。でも言い回しとか表現に慣れてくると、法律と身の回りの現実がだんだん結び付いたんです。うれしかったですね。自分が学んでいるという確かな実感がありました。

「こう働きたい」という目標が具体的にあればあるほど、学ぶことが楽しいし、身につくだろうと思うんです。やらされるのではなく、自ら主体的にかかわったり学ぼうとしたりすることが大事で、そこにやりがいも出てきます。その動機付けに働きかけられるといいと思っています。

働くということは、生きていくために必要で最も切実な問題ですから、働くことを考えることは、自分自身の将来や生き方を考えることであるし、可能性を探ることもあります。私自身、「自分は働くのか」「子育てもある中で今の自分はどこまで頑張れるのか」「自分の仕事は世の中でどれほど役に立つものなのか」などたくさん不安や悩みを抱えています。自分ひとりで考えてみても解決しないので、いろいろな人に相談したり、調べてみたりしました。そうすると次第に視界が開けてきたんですね。

何にしてもそうですけど、自分で一歩踏み出して行動してみた時に、はじめて解決策が生まれてきますよね。雇用不安は解決しなければならぬ深刻な社会問題ですが、そう簡単に解決できるものではないですから、自分の可能性を見つけることに積極的に動くことから始めることによって道が開けるんだということも職業体験を通して子どもたちに伝えたいのです。自分が悩んだことや葛藤したことを自分なりのやり方で伝えられるのではないかと思います。

「職業体験」を自分で一歩踏み出すきっかけにしたいと

中学生くらいから、どんな大人になるのか、どんな仕事に就くのか、進学のこと絡みながら、不安と期待が入り混じった時期を過ごすことになると思うんです。特に今は就職難ですから、不安になるのは当然です。その不安と期待にこたえられるように、子ども自身の中から湧き上がってくる気持ちを引き出しながら、始めの一歩を踏み出せるような機会が必要です。仕事を持って社会に参加していくということは、社会の中で責任を持つことであると同時に、経済的に自立していくということですから、大事なことは、自分で考えて自分で動くということです。「職業体験」を自立にむけたきっかけづくりとして考えたいですね。



板橋区内の消防署に職場訪問